いせはら環境ネットワーク新規加入

一般社団法人いせはら里山環境WORKS

活 動 報 告 会

2026年3月

議　録

1.代表ご挨拶

2. 団体概要

3. ストーリー（活動の背景）

4. 年間ハイライト

5. 今年度の展望

6. 里山レジリエンスとは

7. レジリエンスについて（説明）

8. 終わりの言葉

ご挨拶

代表理事

田中　真美子

環境と福祉の「循環」の中で

「子どもたちが自然の中で元気になり、その子どもたちが里山を整えることで自然も豊かになる。そんな人と自然のポジティブな循環を作りたい」そんな想いが設立のきっかけとなりました。

「いせはら里山環境WORKS」が行っている環境保全は、単に自然を守るだけでなく、「人と自然が共生する仕組みを再生し、それを教育や福祉に活かす」という特徴があります。

多様な立場の方々との関わり、そしていせはら環境ネットワークなどの地域団体と情報を共有し、伊勢原市の豊かな自然環境を次世代へ繋ぐ活動に加わりました。どうぞよろしくお願い致します。

団体概要

・法人名：一般社団法人いせはら里山環境WORKS
・設立：2024年10月
・所在地：神奈川県伊勢原市日向
・事業内容：「環境保全」×「福祉・教育」の融合

主な活動内容は以下。

1. Freespace「ひなたのお庭」の運営

不登校などの悩みを抱える子どもや保護者を対象とした、フリースペース・サードプレイスとしての場を提供。

・活動内容: モンテッソーリ教育をベースにした学び直し、自然体験、農業体験、当事者同士の交流会など。
・支援分野: ひきこもり、いじめ・不登校、社会生活の問題など。
・地域交流のある居場所作り：里山や田畑といった自然環境をフィールドに、地域に開かれた場づくりを目指す。

2. 里山・耕作放棄地の再生（環境保全）

・竹林・森林整備: 放置竹林の伐採や間伐を行い、生物多様性を守る明るい里山を再生。
・自然農・有機農業: 耕作放棄地を活用し、農薬や化学肥料に頼らない持続可能な農法で野菜や米を栽培。土壌の健康を取り戻す。

3．ファームCommunity（有機農家さんとの連携・交流）

活動の背景

活動の背景には、自分自身の経験と、現代の子どもたちを取り巻く環境への強い危機感があります。

1. 設立のきっかけ：自身の不登校経験と子育て

・原体験: 当時、家でも学校でもない「自分のままでいられる場所」がないと感じていたことが活動の根底にあります。

① 現状と課題（WHY）

・社会の息苦しさ:　現代の子どもたち、特に不登校やひきこもりを経験する子にとって、評価や正解ばかりを求められる場所は「居場所」になりにくい。

・地域の課題: 伊勢原の豊かな自然も、人の手が離れれば「荒廃した里山」となり、地域の活力も失われてしまう。

② 私たちの解決策（WHAT）

・「ひなたのお庭」の運営: 里山をまるごとフリースペース・サードプレイスとして活動。

・モンテッソーリ教育の導入:　誰かに教わるのではなく、自然の中で「自ら発見し、やりたいことを形にする」自発的な学びを支える。

・里山再生ワーク: 農業や整備を通じて、自分たちが動くことで「環境が良くなる」という自己効力感を育む。

③ 独自の価値とビジョン（VISION）

・「癒やし」の循環:　子どもたちが自然に癒やされ、元気になった子どもたちが里山を整える。この双方向のケアが、持続可能な環境保全と福祉を実現すると考える。

「正解のない自然の中で、ありのままの自分でいられる居場所作りを目指す。」

年間ハイライト

2021年に平塚市で発足した不登校支援団体「サードプレイスもゆらに」
（2023年平塚市民活動推進事業に選ばれ、助成金を受け活動）の活動の一部を伊勢原市で
行っていたことにより、縁のある日向にて新たに『ひなたのお庭』としてこどもたちの居場所、そして多
世代地域交流の居場所として2024年に活動準備を開始。
2024年10月よりひなたのお庭は面談お話し会など受付開始。（法人化）
『ひなたのお庭・出張休憩室』を開催。2025年2月28日伊勢原版タウンニュースの人物風土記に掲載
2025年4月より「FreeSpaceひなたのお庭」始動。

2024.10月法人化

(一般社団法人設立)

2025年2月28日
伊勢原版タウンニュース
人物風土記に掲載

2024年12月7日環境保全型農法研究成果報告（2023年～2024年度）
伊勢原市中央公民館にて実施。
～日向・藤野地区圃場の実践から～

2023年から2年間にわたり、伊勢原市日向地区で行ってきた実践報告。
・昔ながらの苗代での育苗・冬期灌水による生物多様性の可能性
・手作業による代掻きから学んだこと・手植えによる田植えの際の工夫
・手作業から見えた籾摺り機の必要性　など

その他、耕作放棄地の再生。竹林の伐採など里山保全活動継続中。

今年度の展望

**「いせはら里山環境WORKS」が目指すのは、
「里山が元気になれば、人も地域も元気になる」という確信を、
伊勢原から社会全体へ広げていくことです。**

「環境保全」×「福祉・教育」の融合した居場所作り

不登校が過去最多となる中で、里山という環境を活かした居場所作り。

- 自然の中での「自立」と「自発性」を育む独自のカリキュラムを体系化している。

サードプレイスの進化

現在は子どもたちの支援が中心ですが、今後は**「全世代型のサードプレイス」**への拡張が期待されます。

- 高齢者が持つ里山の知恵を若者に伝え、若者が里山を整備する。
- それぞれの役割を持って関われる「農福連携」を超えた**「里山共生コミュニティ」**への進化も模索中。

持続可能な「里山保全」循環

- **竹林資源の利活用**:

伐採した竹をバイオ炭や建築資材、工芸品として価値化し、その収益を環境保全や子どもたちの支援に還元する「小さな循環経済（ローカルエコノミー）」の構築を目指しています。

環境保全型農法

「いせはら里山環境WORKS」が実践する環境保全型農法（無農薬・自然農など）の今後は、単なる「野菜・米作り」を超えて、社会のセーフティネットと環境再生を両立させる「里山レジリエンス」の核になることを目指します。

里山レジリエンスとは？

1. 生態系・防災のレジリエンス（環境の強さ）

人の手が入ることで、自然災害に強い山を作ります。

- **竹林整備**: 放置竹林は根が浅く土砂崩れの原因になりますが、間伐して広葉樹を育てることで、深く根を張る「崩れにくい山」に再生します。
- **水源涵養**: 豊かな腐葉土の層を作ることで、大雨を一時的に蓄え、洪水や渇水を防ぐ「緑のダム」としての機能を高めます。

2. 社会・経済のレジリエンス（地域の強さ）

外部の物資やエネルギーに依存しすぎない、自立した暮らしを作ります。

- **資源の自給**: 伐採した竹を燃料（薪や炭）にしたり、竹チップを肥料にしたりすることで、外部からの肥料や燃料の供給が止まっても「食」と「エネルギー」を維持できる仕組みです。
- **地産地消**: 地域の資源を地域で使い切る「循環」が、非常時の備えになります。

3. 人の心のレジリエンス（精神の強さ）

これが、いせはら里山環境WORKSが最も大切にしている部分です。

- **居場所の回復**: 不登校などで一度社会との繋がりが切れてしまった子どもたちが、自然の中で「ありのまま」を認められ、自分の手で環境を変える（竹を切る、野菜を育てる）経験を積むことで、**困難に直面しても折れない、あるいはしなやかに回復する心**を育みます。

まとめ：里山レジリエンスとは、**「自然が豊かになれば、そこに住む人の暮らしも心も、変化に対して強くなる」**という、環境と人間をセットで捉えた復元力のことです。

「自然が豊かになれば、そこに住む人の暮らしも心も、

変化に対して強くなる」

「この活動が、地域全体のしなやかな強さへと

繋がることを願っています」

ご清聴ありがとうございました。

一般社団法人いせはら里山環境WORKS